

**学習塾講師検定【集団指導2級】評価マニュアル
(第2版)**

社団法人全国学習塾協会

目 次

I. 評価項目・チェックシートの構成と一覧	3
II. 集団指導 2 級について	5
1. 集団指導 2 級の評価チェックシート・配点 (80 点満点)	5
2. 集団指導 2 級の審査方法	7
(1) 採点方法	7
(2) 審査体制	8
(3) 審査手順	8

I. 評価項目・チェックシートの構成と一覧

評価項目・チェックシートは、学習塾講師が授業を行う際に実施すべき行動（＝評価項目）を、『授業の流れ』＜横軸＞と『講師の塾生に対する行動目的』＜縦軸＞とで構成した“3行×3列＋共通1行”のマトリクス上で表現している。

本検定制度では、受験者である学習塾講師の授業を模擬授業映像データを通じて、それぞれの行動（＝評価項目）の良し悪しについて審査員が採点することにより、受験者の可否を判断するものである。

- ◇＜横軸＞ 授業の流れ = 「導入」→「展開」→「まとめ」の流れ。
- ◇＜縦軸＞ 講師の塾生に対する行動目的 = 「学習を動機づけ」「授業に集中させる」こと。その結果「学習内容を理解させる」こと。
- ◇＜共通＞ 総合評価、基本的マナー、授業科目の知識 / 等。



検定試験における評価項目（一覧）は以下の通り。

	I. 導入	II. 展開(演習)	III. まとめ
A 学習を動機づけるための行動	<p>1. 授業の位置づけの明確化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本日の授業（単元）は何をやるのかを説明している。 ・ 当該単元と他の単元との関わりを説明している。 <p>2. 授業の初めに当該単元に興味を持たせる工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 当該単元について、生徒の興味を持たせる工夫をしている。 	<p>1. 当該単元に興味を持たせるための工夫（展開時）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 当該授業内容について、必要に応じて、生徒の興味を持たせる工夫をしている <p>2. 授業中の激励など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 展開時に、生徒の反応をみて、励ましの言葉ややる気を喚起させる言葉をかけている 	<p>1. 授業の位置づけの再確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本日の授業（単元）は何をしたのかを説明している ・ 当該単元と他の単元との関わりを説明している <p>2. 当該単元に興味を持たせる工夫（まとめ時）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 当該単元について、生徒の復習や次の予習を促す工夫をしている。
B 学習内容を理解させるための行動	<p>1. 導入時の説明・発問のタイミング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 最初の説明や発問が、円滑な授業の展開を導くために適切なタイミングである。 <p>2. 導入時の説明・発問の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 最初の説明や発問は、適切な題材を用いて、わかりやすい説明ができています。 	<p>1. 適切な説明・発問・例示</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 例示や発問の回数・タイミングが適切である。 ・ 生徒の理解の定着を図るために工夫された説明、発問がある。 <p>2. 生徒の理解確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の理解度をチェックするための発問をしている。 ・ 対象者の表情や姿勢、応答などから理解度を解釈し、確認している。 <p>3. 説明・発問・確認・対応の流れ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 発問・確認・対応の流れが理解を促すために適切である。 ・ 特に授業の要点などが明確にわかるように説明している。 <p>4. 生徒の応答に対する対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の応答に対するリアクションが適切である。 ・ 確認したことを活かした説明ができています。 	<p>1. 生徒の理解確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の理解度をなんらかの方法で最終確認している <p>2. 要点の明示</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業の要点などが明確にわかるように再度説明している
C 授業に集中(参加)させるための行動	<p>1. 導入時の話し声</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 惹きつけられるような話のリズム・強弱・緩急である。 ・ 一般的に聞き取りやすい声の大小、間、明るさである。 <p>2. 導入時の態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 表情、立居、ふるまい、目線、等に違和感がなく、情報伝達を促している。 <p>3. 導入時の授業運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 遅刻してきた生徒や雑談を止めない生徒など、特定の生徒に流されず、教室全体を把握した授業を開始している。 	<p>1. 展開時の話し声</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 聞いていて苦にならない話のリズム・緩急である。 ・ 一般的に聞き取りやすい声の大小、間、明るさである。 ・ 要点の説明時などが明確にわかるよう、話の強弱とスピードをコントロールしている。 <p>2. 展開時の態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 表情、立居、ふるまい、目線、等に違和感がなく、情報伝達を促している。 <p>3. 板書による説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 文字がよく見えて、目的に応じた板書の活用に配慮している ・ 極端に長文の板書、極端に長時間背を向けた板書をしていない <p>4. 講師の意欲・情熱</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 講師の意欲や情熱・使命感が、生徒に伝わっているとされる。 <p>5. 展開時の授業運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 注意力が散漫な生徒や遅刻してきた生徒など、特定の生徒に流されず、教室全体を把握した授業をしている。 ・ 飽きてきた生徒、ざわついている生徒を注意し、再度集中させている。 	<p>1. まとめ時の話し声</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 最後まで惹きつけられるような話のリズム・強弱・緩急である。一般的に聞き取りやすい声の大小、間、明るさである。 <p>2. まとめ時の態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 表情、立居、ふるまい、目線、等に違和感がなく、気持ちの良いまとめを促している。 <p>3. まとめ時の授業運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 終了前に退出しようとする生徒など、特定の生徒に流されず、教室全体を把握した授業をしている
授業科目の知識、基本的マナー、総合評価（共通）			
1. 総合	2. 基本的マナー	3. 授業内容	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業全体の構成が適切である ・ 教室全体を掌握し、効果的な学習指導ができています ・ 生徒から学習塾講師として高い信頼を得ている 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 不適切な言葉づかい ・ 身だしなみ、態度 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業科目の知識をしっかりと有しており、授業内容に誤りがない 	

II. 集団指導 2 級について

1. 集団指導 2 級の評価チェックシート・配点 (80 点満点)

満点 80 点

I. 導入	22		
	問 題	やや 問題	基本 水準
A 学習を動機づけるための行動			
1. 授業の位置づけの明確化			
・ 本日の授業（単元）は何をやるのかを説明している ・ 当該単元と他の単元との関わりを説明している	0	-	4
2. 授業の初めに当該単元に興味を持たせる工夫			
・ 当該単元について、生徒の興味を持たせる工夫をしている	0	-	2
B 学習内容を理解させるための行動			
1. 導入時の説明・発問のタイミング			
・ 最初の説明や発問が、円滑な授業の展開を導くために適切なタイミングである	0	-	3
2. 導入時の説明・発問の内容			
・ 最初の説明や発問で、わかりやすい説明ができています	0	-	3
C 授業に集中（参加）させるための行動			
1. 導入時の話し声			
・ 惹きつけられない話のリズム・強弱・緩急である ・ 一般的に聞き取りにくい声の大小、間、明るさである	0	3	6
2. 導入時の態度			
・ 表情、立居、ふるまい、目線、等に違和感があり、情報伝達を促している	0	2	4

II. 展開（演習）	29	点
-------------------	-----------	----------

	問 題	やや 問題	基本 水準
A 学習を動機づけるための行動			
1. 当該単元に興味を持たせるための工夫（展開時）			
・当該授業内容について、生徒の興味を持たせる工夫をしている	0	-	4

B 学習内容を理解させるための行動			
1. 適切な説明・発問・例示			
・例示や発問の回数・タイミングが適切である ・生徒の理解の定着を図るために工夫された説明、発問がある	0	-	3
2. 生徒の理解確認			
・生徒の理解度をチェックするための発問をしている ・対象者の表情や姿勢、応答などから理解度を解釈し、確認している	0	-	3
3. 説明、発問・確認・対応の流れ			
・発問・確認・対応の流れが理解を促すために適切である ・特に授業の要点などが明確にわかるように説明している	0	-	3

C 授業に集中（参加）させるための行動			
1. 展開時の話し声			
・聞いていて苦になるような話のリズム・緩急でなる ・一般的に聞き取りにくい声の大小、間、明るさである ・要点の説明時などが明確にわかるよう、話の強弱とスピードをコントロールしている	0	2	4
2. 展開時の態度			
・表情、立居、ふるまい、目線、等に違和感があり、情報伝達を促している	0	2	4
3. 板書による説明			
・文字がよく見えず、目的に応じた板書の活用に配慮している ・極端に長文の板書、極端に長時間背を向けた板書をしていない	0	2	4
4. 講師の意欲・情熱			
・講師の意欲や情熱・使命感が、生徒に伝わっていると思われる	0	2	4

III. まとめ	13	点
-----------------	-----------	----------

	問 題	やや 問題	基本 水準
A 学習を動機づけるための行動			
1. 授業の位置づけの再確認			
・本日の授業（単元）は何をしたのかを説明している ・当該単元と他の単元との関わりを説明している	0	-	2
2. 当該単元に興味を持たせる工夫（まとめ時）			
・当該単元について、生徒の復習や次の予習を促す工夫をしている	0	-	2
B 学習内容を理解させるための行動			
1. 生徒の理解確認			
・生徒の理解度をなんらかの方法で最終確認している	0	-	2
2. 要点の明示			
・授業の要点などを再度説明している	0	-	3
C 授業に集中（参加）させるための行動			
1. まとめ時の話し声			
・最後まで惹きつけられない話のリズム・強弱・緩急である ・一般的に聞き取りにくい声の大小、間、明るさである	0	1	2
2. まとめ時の態度			
・表情、立居、ふるまい、目線、等に違和感があり、気持ちの良いまとめを促している	0	1	2

2. 集団指導 2 級の審査方法

(1) 採点方法

- それぞれの評価項目についての採点は、以下の 2 通り（有無法 or 減点法）のいずれかである。

◇ **有無法** 行動基準として記載されている具体的な行動がなされたか、行動の『有無』で評価。

【無地】

- a) 行った場合 x 点 = 「基本水準」レベル
 b) 行わなかった場合 0 点 = 「問題」レベル

有無法の例

		問題	やや問題	基本水準
A 学習を動機づけるための行動				
1. 授業の位置づけの明確化				
・本日の授業内容は何をやるのかを説明している	0	-	4	
・本日の授業内容と他の内容との関わりを説明している				
2. 授業内容に興味を持たせる工夫（導入時）				
・本日の授業内容について、生徒の興味を持たせる工夫をしている	0	-	4	

行動基準を満たさなければ「問題」
 ” を満たしていれば「基本水準」

◇ **減点法** 行動基準として記載されている具体的な行動と照らし合わせて、問題なく行われているか、行動の『質をネガティブ』チェック。

【ピンク地】

※審査員は「基本水準」レベル<y 点>から採点をスタートし、

- a) 何ら問題がない場合 y 点 = 「基本水準」レベル
 b) 何らかの問題がある場合（問題の程度に応じて以下のとおり減点）
 ー 軽微な問題 0.5y 点 = 「やや問題」レベル
 ー 重篤・複数の問題 0 点 = 「問題」レベル

減点法の例

		問題	やや問題	基本水準
C 授業に集中（参加）させるための行動				
1. 導入時の話し声				
・惹きつけられるような話のリズム・強弱・緩急である	0	3	6	
・一般的に聞き取りやすい声の大小、間、明るさである				
2. 導入時の態度				
・表情、立居、ふるまい、目線、等に違和感がなく、情報伝達を促して	0	2	4	

「基本水準」レベルから採点をスタート
 何らか問題があれば「やや問題」→「問題」へと減点

(2) 審査体制

- 審査員 : 3名

※文系科目・理系科目担当者を各1名以上含む

- 審査員資格 :

- ①学習塾において10年以上の集団指導経験を有すること
- ②社団法人全国学習塾協会支部関係者の推薦を受けていること

(3) 審査手順

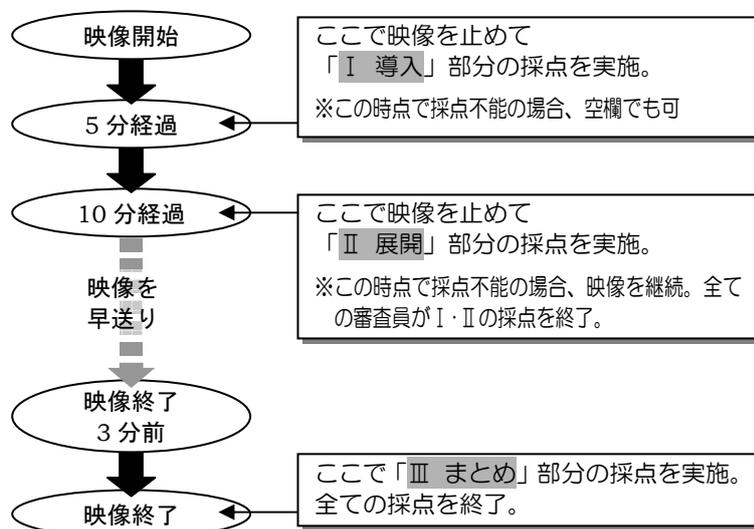
- 各審査員間による評価の「ブレ」が生じないように、審査開始前に合格ボーダーラインとなる講師の模擬授業映像データ(DVD)を確認し、採用基準の目安をつける。

- ①審査員3名が一堂に会し、模擬授業映像データを観ながら「評価チェックシート」を用いて採点を行う。なお、「Ⅰ 導入」「Ⅱ 展開」「Ⅲ まとめ」それぞれの採点を独立して行うべく、以下の手順により模擬授業映像データ(DVD)を適宜再生・停止しながら、段階を追って採点していく方法を採用する。

- － 「Ⅰ 導入」部分の採点は、模擬授業映像データ開始から5分経過時点で映像を止めて採点を行う。この時点で採点(判断)が不可能である場合はこの限りではない。全ての審査員が当該部分の採点を終えたら、模擬授業映像データの映像を再開する。

- － 「Ⅱ 展開」部分の採点は、模擬授業映像データ開始から10分経過時点で再度映像を止めて採点を行う。この時点で採点(判断)が不可能である場合は採点が可能となる時点まで映像をそのまま継続する。全ての審査員が当該部分(「Ⅰ 導入」部分も含め)の採点を終えたら、模擬授業終了3分前の時点まで映像を早送りする。

- － 「Ⅲ まとめ」部分の採点は、模擬授業映像データ終了3分前から終了時点までの映像を再生して採点を行う。



②受験者の担当科目に合わせ、これを専門とする審査員が「共通項目 3 授業内容」を判断し、この点数を他の審査員に伝達、審査員 3 名全員が同じ点数を記入する。

③審査員 3 名各自が総ポイントを算出するとともに、審査員コメントを記入する。なお、採点方法の違いによって評価項目毎のコメントの書き方を配慮する。

◇ 「減点法」による採点を行う評価項目：減点した箇所（映像時間・行動等）、その判断理由について、極力コメントを記載

■2 級の合格水準の考え方

④審査員 3 名の総ポイントの合計点数が 180 点(80 点満点×75%×3 名)以上の場合は「合格」、180 点未満の場合は「不合格」と判定する。

⑤ただし、合計点数が 180 点以上であっても、審査員のうち 1 名以上が 60 点を下回る採点を行った場合、審査員 3 名で協議の上、合否を判定する。

- 2 級相当の学習塾講師としての「基本水準」を全て満たしていると評価されれば総ポイント 80 点(満点)がつくこととなり、この 7 割 5 分にあたる 60 点を合格点として設定する。
- また、評価の公平性・客観性を保つためにも、合否の判定は審査員 3 名の総ポイントの合計によって行うことが望ましく、「60 点×3 名=180 点」を合否判定ラインとする。
- ただし、3 名の審査員のうち 1 名でも 7 割(56 点)に達していないと判断する審査員が存在するのであれば、そう判断するに至る理由等についての説明を得た上で、審査員 3 名による協議で合否を判定する。ただし、その協議の結果については、受験者に対して伝達するものとする。